

ライドシェアによる サステイナブル滋賀の実現

今西 真由 立命館大学法学部公務行政4回生
大澤 健 京都大学文学部2回生
加藤 優貴 立命館大学5回生
木村 真弥 慶應義塾大学4年
西澤 通 慶應義塾大学4年

1:概要

「滋賀が抱える課題」

交通不便地で、移動の手段が少ない

交通手段としての車の移動が多い→運輸部門における温室効果ガスの削減



「GOAL(解決後の姿、目標)」

交通弱者が生活を営む上で、
移動面において不自由なく過ごせる状態

環境に配慮したまちづくり
新たな雇用機会の創出
地域コミュニティの活性化



2:解決方法

「手段」

ライドシェアの導入

～起こりうる課題～

法律(損害保険の問題)

→評価システム+ドライバーになるための資格(安全性の指標)

ドライバーと乗客のトラブル

→女性限定ドライバー、車内カメラの設置

報酬の支払い方法

→ふるさと納税的なシステム





報酬の支払い方法

金銭での受け渡し ×



ふるさと納税的なシステム ○

SDGsへの貢献



1 貧困に苦しむ子供たちをサポートしている企業



2 有機野菜を栽培している農家



5 女性活躍を推進している企業



8 地元の伝統工芸名産物



12 環境貢献製品を扱っている企業

図：解決のイメージ



3:成果と評価方法

自動車の台数の削減、不要な移動(運転)が減る



CO₂の削減(環境への配慮)

+

生活しやすい環境の整備・雇用の創出

評価方法

社会

- 世論調査

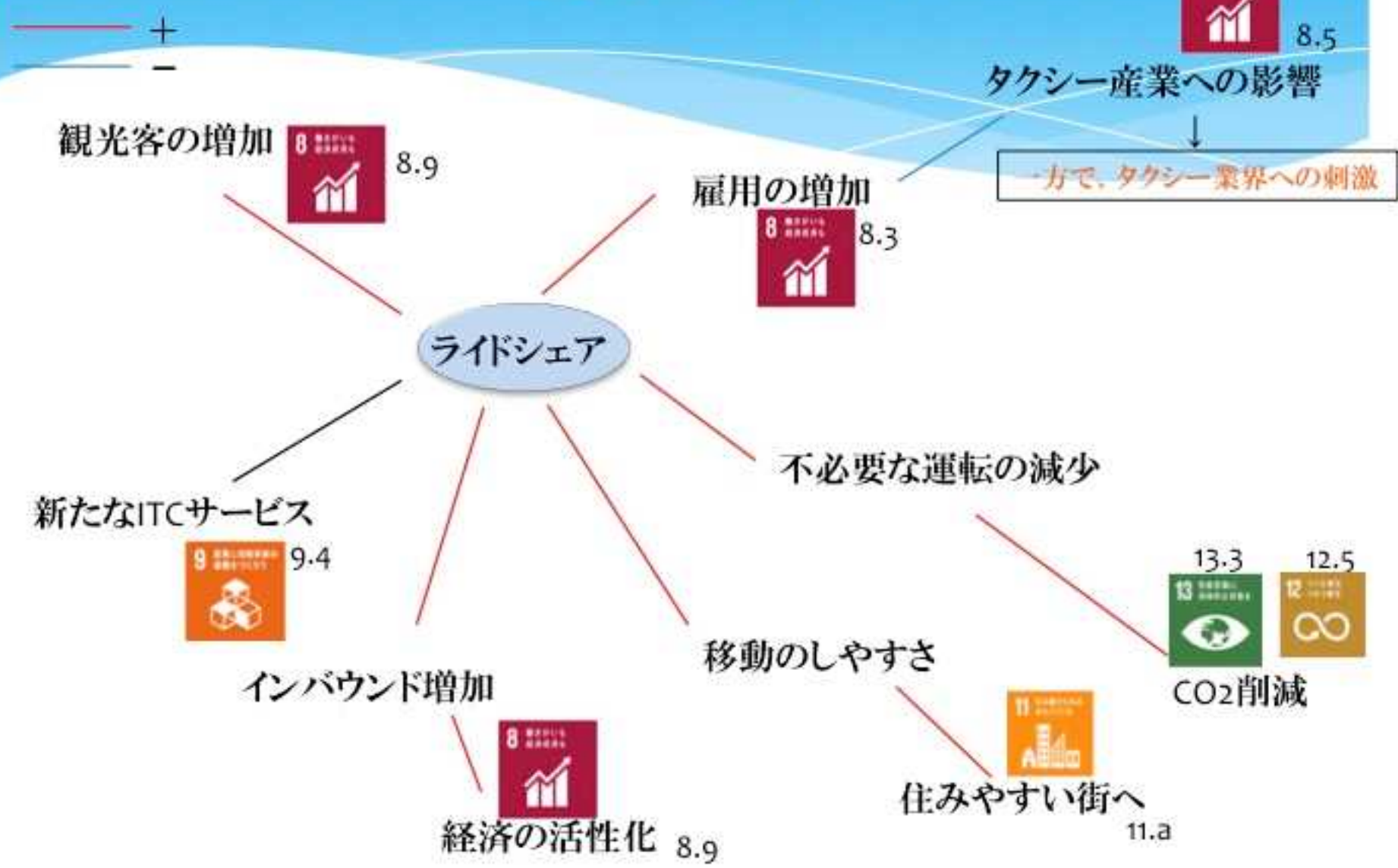
経済

- 雇用増加率
- 売り上げ増加率

環境

- 車所有率の増減
- 県域の温室効果ガス排出量の調査

4:連鎖や効果



5:PJの課題

ライドシェアの使用によるメリット、社会への貢献の認知(特に高齢者)を広める。



ドライバーの数、質の充実(そのためのドライバー側の安全講習)を拡大する。



高齢者へのICT利用のための講習を実施する。



実証実験

これらのステップいかに、効率良く行なうかが課題